



コミュニティの継続を意図した住環境の提案

A proposal of the living environment intending for the continuation of the community

神奈川大学大学院 工学研究科 建築学専攻 山家研究室
(Yamaoka Laboratory, Graduate School of Engineering, Course of Architecture and Building Engineering)

足立 将博
ABACHI Masahiro

はじめに

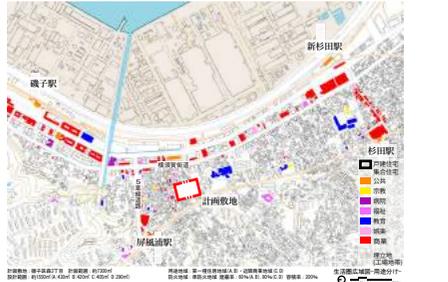
世代交代が進んだ現在の密集住宅市街地では、転入者が増え、顔なじみが減り、近くにどんな住人がいるのかわからない状況になりつつある。また現在の住宅は現代人の「プライバシーとセキュリティ」に対する過剰な意識の高さから、鍵やシャッター、門扉などで安易に周辺に対し、閉じられてきた。このように街に対し閉じ、部屋で完結する住居は、まちなみを均一化し、閉鎖的な住環境を作り、コミュニケーションを生みにくくしている。

そこで、直接的・間接的なコミュニケーションの生まれる場を考え、現代の住居のあり方を再考していくことで、コミュニティが継続する住環境を提案する。

1.対象敷地

横浜市区森3丁目について

この地域は1950年代後半から、臨海部工業地帯の開発に伴い、後背住宅地として市街化し、スプロール的に開発された。また、狭い道路が多く、防災や避難、高齢化などの問題を抱えている。地域にある白旗商店街は20年ほど前から衰退し、低・中層集合住宅や戸建て住宅へと建て替わっている。

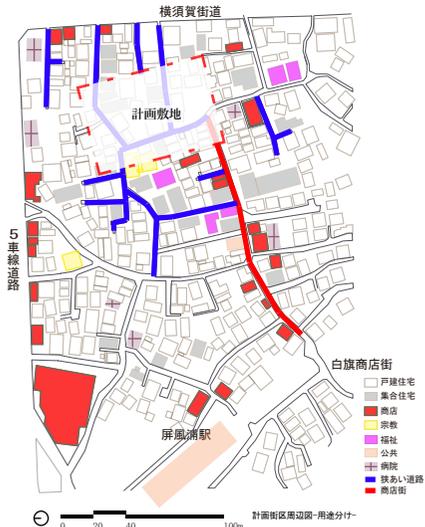


1-1.現在のコミュニティ

森町内会老人部白旗会や白旗商店組合などのコミュニティがあり、道では井戸端会議や、挨拶などの日常のコミュニケーションが見られていた。しかし現在では転入者と商店を営む人などの先住者との接点は少なくなっている。

1-2.昔の名残のある風景

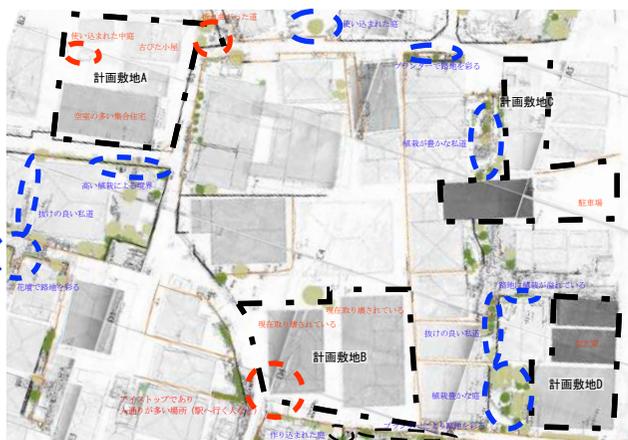
商店街から奥まった場所に行くにつれて、塀や折れ曲がる道から時間の蓄積を感じる風景が残っている。



2.敷地調査

まちなみを作る要素である植栽や塀、みちなどの調査から特色の違う4箇所の

- 計画敷地A: 路地の奥まった場所、空室の多い集合住宅や古びた小屋のある敷地
- 計画敷地B: 駅から来る人のアイストップとなる場所、現在2つの集合住宅が壊され、空き地になっている敷地
- 計画敷地C: 商店街と路地に面している敷地、現在駐車場、豊かな庭に挟まれている敷地
- 計画敷地D: 商店街に面し、開くことのできる場所、現在空き家があり、豊かな庭と接している敷地



計画敷地内の様々な地面テクスチャー



計画敷地内の様々なプランターや植栽



3.提案-計画について-

3-1.目的

- (1)先住者と転入者の接点を設け、緩やかな世代交代の行える住環境を作っていく。
- (2)現状の地域資源(病院、サロン、福祉施設、町内会館など)と接点空間(工房や図書室、コミュニティカフェなどの)互助ネットワークを作ることで、高齢者や子供にとっても過ごしやすい住環境を作っていく。
- (3)防災、通風、採光などの木造密集住宅地の問題を改善し、住環境を向上していく。
- (4)解や道などが頼み出す懐かしさを感じる風景を再構築していく。

3-2.集合住宅(接点空間)とまちの関わり

計画する集合住宅に接点空間を設ける。セミパブリック性のある接点空間はまちと集合住宅(公と私)を緩やかにつなげる空間であり、先住者と転入者との関係を作る。まちの地域資源である病院や福祉施設、商店街などの医・職・食と新たな集合住宅が互いに補い合うことで、小さな生活圏を作っていく。



計画敷地A:アプローチから見る



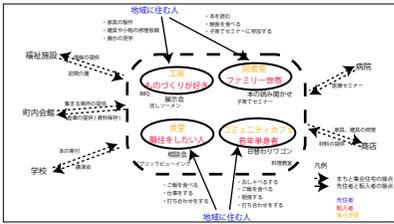
計画敷地B:工房を見る



計画敷地C:踊り場を見る



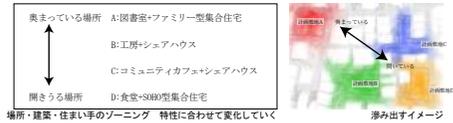
計画敷地D:全体を見る



4.提案-設計について-

4-1.場所の特性に合わせた住まい手と接点空間の変化

曲がり道や解が多く残っているような奥まった私的性質の場所には守られたい世帯が住まい、商店街沿いなどの人通りが多いような公的性質の場所にはシェアハウスなどの開きたい人たちが住む。

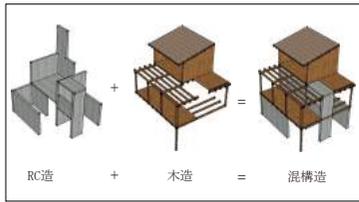


4-2.まちなみを取り入れる

街に存在する曲がった道が作るヒダやたまり、抜けなどの要素を取り入れ、街並みに連続性を作る。

4-3.混構造による生活様式の内蔵

RCと木造による混構造により建築を構成していくことで、変わるもの・変わらないものや開く・閉じるなどの生活要求に対応する建築を計画する。

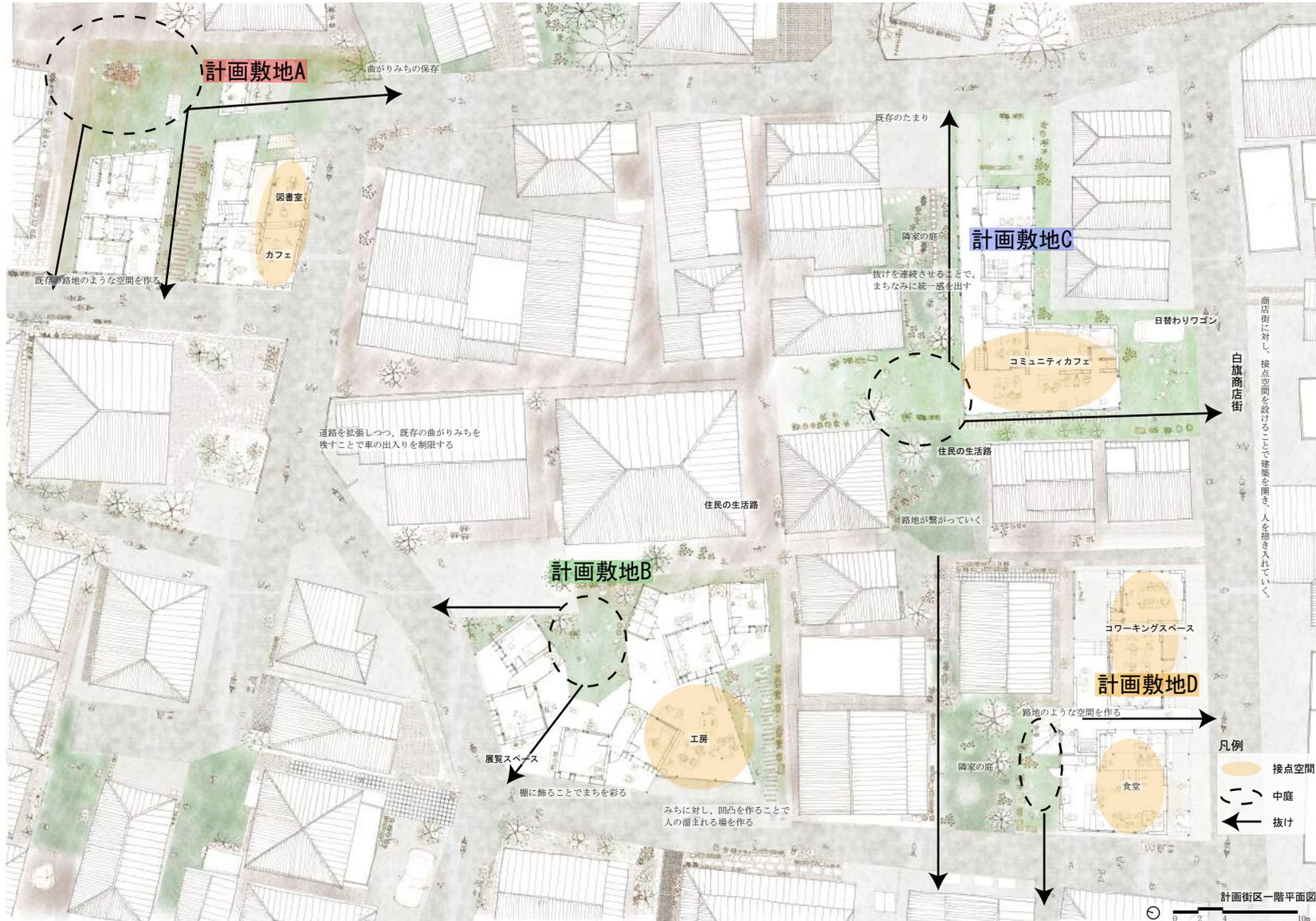


配置図(計画街区一階平面図)

計画敷地の特徴である抜けや庭、塀などの要素を場所ごとに取り入れた集合住宅を計画していく。4つの集合住宅は地域と繋がる接点空間をもち、まちに様々な要素(集まる・作る・食べるなど)を埋め込んでいくことで、小さな生活圏を作り出していく。

集合住宅特徴

計画敷地	名前	特徴	デザインコード	プログラム
計画敷地A	折れ曲がり道に建つみちの家 (Passage House)	視線・動線軸の変化	通路	図書室
計画敷地B	アリストップに建つ塀の家 (Ledge House)	見せる塀	塀	工房
計画敷地C	二本の軸に建つ煙突の家 (Chimney House)	開くと守るの間	煙突	コミュニティカフェ
計画敷地D	賑わいと緑に包みこまれる家 (Landing House)	開く塀	踊り場	食堂 コワーキングスペース



計画敷地A:
Passage House(折れ曲がり道に建つみちの家)



プログラム:図書室+ファミリー型集合住宅
 敷地面積:430.5㎡ 延床面積:325.9㎡(38.5㎡~63.3㎡)
 住戸タイプ:ファミリー世帯向け集合住宅
 接点空間:図書室+カフェ(オーナー自営)
 住人:6世帯 条件:ファミリー、高齢者
 特徴:土間キッチンがみちに面する
 ・月一回の整理
 ・図書室の開放が増える

この敷地は住宅地の奥まっている場所であり、卵や曲がった道、植栽から歴史を感じるような場所である。ここにファミリー世帯向けの集合住宅を提案する。集合住宅は図書室を媒体とし街へとつながり、奥まった場所なりの開き方をする。
 また各住戸は土間キッチンを道に面することで、食をきっかけとしコミュニティを築いていく。メゾネットやトリブレッドで住戸を構成していくことで、様々な方向で生活し、ドアではなく通路によって家族の距離を緩やかにつないでいく家である。

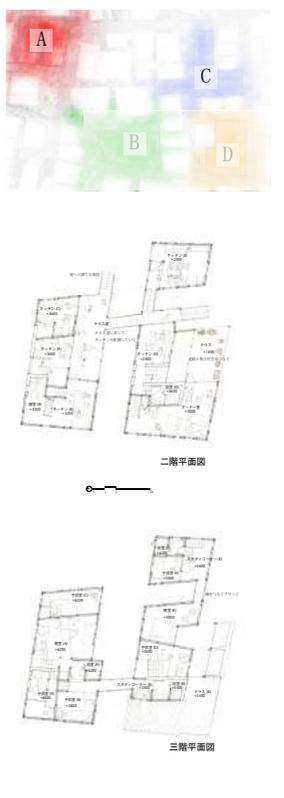


計画敷地B:
Ledge House(アイストップに建つ棚の家)

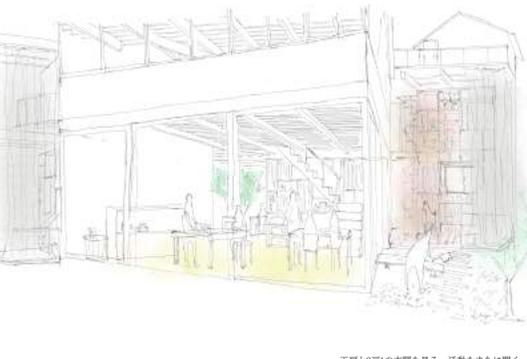
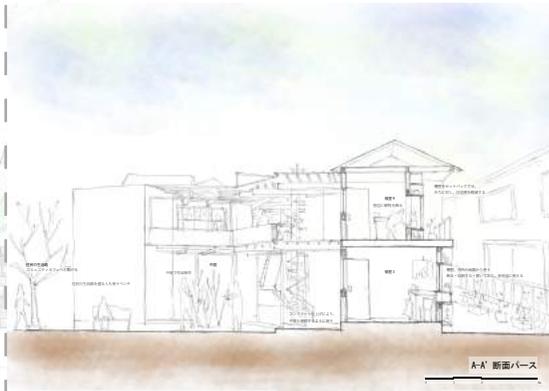


プログラム:(工房+シェアハウス)
 敷地面積:420㎡ 延床面積:379.7㎡(私有:109.8㎡ 共有:269.9㎡)
 一人当たり(31.6㎡-私有+共有)
 住戸タイプ:シェアハウス 接点空間:工房+飾り棚(各住戸)
 住人:単身者 10~12人 条件:ものづくりに興味のある人
 特徴:2住戸に1つの玄関
 ・週一回の工房の受付
 ・工房が無料で使える

この敷地は住宅地の奥まっている場所と開いている場所との中間的な位置であり、車の交通量が少ないため、歩行者の迂回路として使われている。ここに工房付きのシェアハウスを提案する。各部屋に飾り棚があり、また2住戸に1つの玄関を設けることで、活動や生活を表現できる場所を作っていく。また工房だけでなく、中庭も活動や休息の場として計画していく。壁や窓から突き出した棚は住人の活動を外へと開き、人の関係を生み出す。

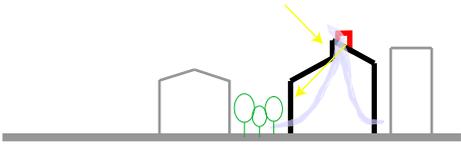


南アプローチを見る 棚や道を引きこみ、敷地内へと連続性を作る



工房と2戸1の玄関を見る 活動をまちに開く

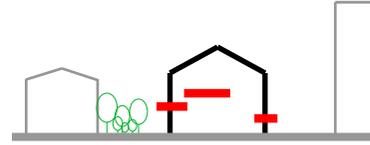
計画敷地C:
Chimney House(2本の軸に建つ煙突の家)



プログラム:コミュニティカフェシアハウス
敷地面積:405㎡ 延床面積:305.0㎡ (私有:61.6㎡ 共有166.4㎡ 公共77.0㎡)一人当たり(39.6㎡-私有+共有)
住戸タイプ:シアハウス
接点空間:コミュニティカフェ
住人:単身者 5-7人 条件:若い単身者、
特徴:日替わりワゴン(肉、野菜、魚など)
:個室ごとに飾り棚を持つ
:週一回のカフェの手伝い

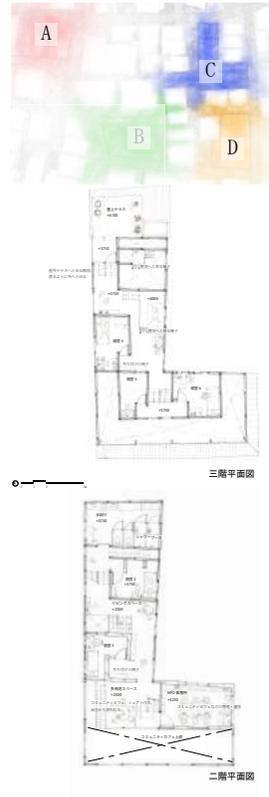
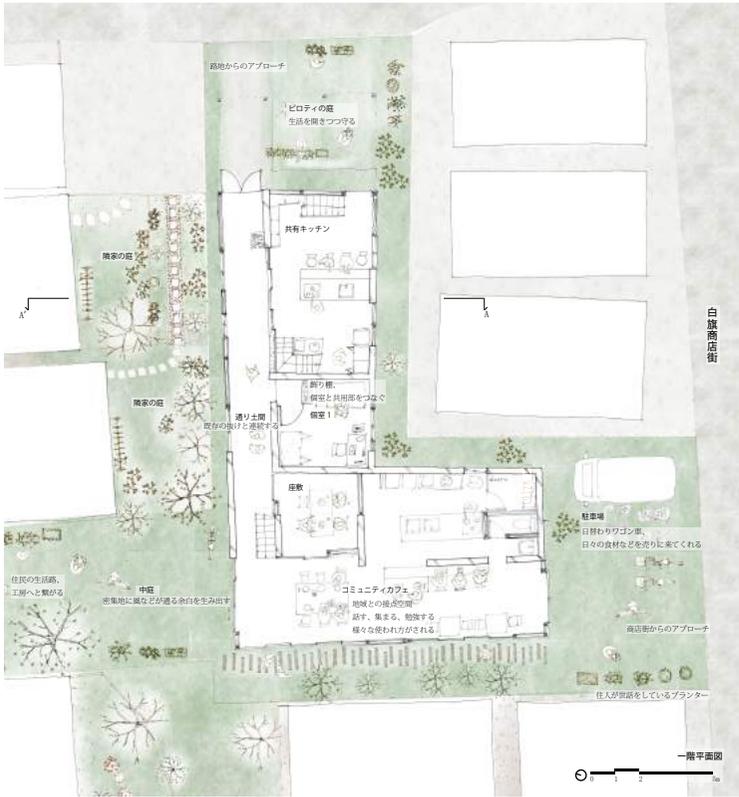
この敷地は住宅地の奥まっている場所と開いている場所と接している中間的な場所である。ここにコミュニティカフェ付きのシアハウスを提案する。立体的な幅の違う道によって各部量をつないでいく。また1.5層の広い踊り場は、時間によってカフェの席であったり、事務所の打ち合わせスペースへと変化していく場である。吹き抜けや煙突のような立体的につながり、変化のある建築は採光や通風の良い環境を生み出していく。

計画敷地D:
Landing House(賑わいと緑に沿う踊り場の家)

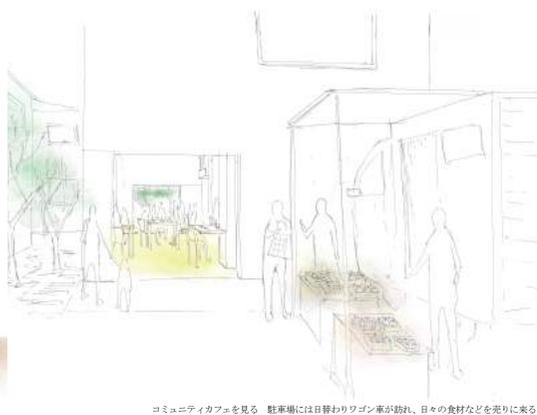


プログラム:食堂+SOHO型集合住宅
敷地面積:290.7㎡ 延床面積:295.6㎡(私有:194.8㎡ 公共100.8㎡)一人当たり(39.6㎡-私有+共有)
住戸タイプ:シアハウス 接点空間:食堂、コワーキング
住人:SOHO 6世帯 条件:職住したい人
特徴:コワーキングスペース 6席
:まかないが出る

この敷地は商店街に面しており、開いた場所である。ここに食堂・コワーキングスペース付きのSOHO型集合住宅を提案する。職住したい人たちが住んでいく。一階にコワーキングスペースを設け、長期や短期の働く場が欲しい人に貸し出していく。床の高さを変えて作ることで、何となくつながり離れているような場を作っていく。また様々な踊り場を設けることでSOHOのオフィスと廊下がつながり、私と共有の曖昧な場を作り、高さの違う立体路地を作っていく。



A-A' 断面パース



コミュニティカフェを見る 駐車場には日替わりワゴン車が訪れ、日々の食材などを売りに来る



A-A' 断面パース



共有踊り場を見る 生活は少しずつ外へと広がっていく